

平成 29 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 双 星 高 等 学 校

平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- 1 教育・学習内容や補習等の取組を充実させ、普通科の4年制大学進学率と難関大学合格率の向上を図る。
- 2 教科学習のみならず、生活習慣上の基礎・基本を定着させ、生涯にわたって夢と志を持ち続け、心豊かで、生きがいのある人生を創造していく態度を培う。
- 3 命の尊厳に対する自覚を基に、防災教育・安全教育を強化し、危機管理能力の向上を図る。
- 4 学校評議員会や学校評価を通じた学校教育活動や運営状況の広報・発信に努め、保護者や地域社会との連携を深めることによって、開かれた学校づくりを推進する。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.3	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
①長期休業日や放課後に補習を実施し、学力向上に日々努力している。 ☞夏期補習は、1学年で9講座、2学年で13講座、3学年で12講座と生徒の希望に応じて選べる講座を設定することができた。また、検定前等に放課後補習を実施し、合格という結果を出すことができた。	☞教室の確保が課題である。英検等大学入試に合わせた取り組みを考えていく必要がある。		
②校内における「公開授業」を実施し、教科内及び各教科間の交流や研修を推進することによって「わかりやすい授業」の展開を目指している。 ☞11月に公開授業週間を設けた。	☞研究授業をこの時期に実施できるようにしたい。		
③生徒のニーズや授業展開にあった書籍の充実に努め、「図書館だより」を定期的に発行し、新着図書案内などの情報を発信することによって、読書活動の啓発・促進及び学習支援を図っている。 ☞「図書館だより」「新着図書案内」を定期的に発行し、読書活動を啓発・促進することができた。授業展開に応じた書籍を充実させ、図書館を利用した教育活動を支援することができた。日常の図書当番に加え、図書館報「afto」の作成を通じて、図書委員の活動意識・意欲が高まった。	☞図書館利用は増加しているが、蔵書の中には変色した古いものもあり、順次刷新していく必要がある。		
④「青少年読書感想文コンクール」に応募している。 ☞阪神支部優良賞を受賞した。			

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.6	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
①生徒の自主的な進路選択を適切にサポートするとともに生徒それぞれの能力を伸長させ、将来の生活に活かせるよう指導している。 ☞生徒が自主的・主体的に進路選択できるよう、適切なタイミングで各学年と協力し、生徒の実態に合わせた進路指導を行った。	☞生徒たちの進路希望が難関大学を希望する生徒から就職を強く希望する生徒まで多様かつ複雑で、それぞれに応じた内容を検討し力をつけさせる難しさがある。生徒一人ひとりと向き合う時間を確保し、親身になって相談に応じ、生徒が納得する進路を獲得するまで時間をかけて指導する必要がある。		
②各自の進路希望に合わせたガイダンス(説明会)や個人面談を実施し、進路に関する意識を高めている。 ☞各学年とも適切な時期に、生徒の進路希望に合わせ説明会を行い、進路に関する意識を高めた。また3年生には進学・就職希望者全員と個人面談を行い、「なりたい自分・就きたい職業」を発見し、「今何を考え何をすべきか」を自らの力で考えられるよう指導した。	☞内発的な動機付けを行うために、各学年と連携して指導してきたが、生徒たちが「自ら考え」「自ら行い」「自ら責任を持つ」までには至っておらず、教職員の生徒とのかかわり方や進路指導体制を再度見直す必要がある。		
③外部講師の招聘や校外での研修会への参加を通じて、就職及び進学への意欲向上を図っている。 ☞各学年で進路希望別に分け、大学や企業への見学会や就職希望者に対して専門家による面接指導を実施した。	☞生徒たちは事前・事後指導を含め、進路行事を行うことに成長が見られるが、進学・就職ともにスタート時期が遅く、必ずしも目標の進路を掴んでいるとは限らない。		
④「基礎学力テスト」及び「全国模試」を定期的に実施、学習到達度を確認させるとともに進学希望者にきめ細かい指導を行っている。 ☞4月と9月の「基礎学力テスト」と、1年生3回・2年生4回・3年生6回の「全国模試」を実施し、生徒の学力の定点観測支援や判明した弱点の補強を生徒に促す自立学習支援に努めた。	☞入試制度の多様化・複雑化による入試動向をさらに分析し、学力向上に向けた生徒の主体的な学習を指導する必要がある。 ☞成績データの分析活用法を研究し、生徒・保護者・教職員にフィードバックしていく必要がある。		
⑤遅刻者に対する毎朝の別室指導や遅刻多数生徒の生活改善を促すため、「早朝登校指導」を行っている。 ☞上記の指導により、遅刻者数は確実に減少している。	☞遅刻をしている訳ではないが、始業開始間近で登校してくる生徒に対して、時間に余裕を持った行動を促す必要がある。		
⑥全校集会や外部より招聘した講師による講話、及び全校生徒の意識を高めるための呼びかけプリントの配布などを通して、常に生徒の心への働きかけを行い、道徳性の育成に努める。 ☞授業やクラブ活動等の学校生活全般において、あらゆる場面で生徒の心への働きかけに取り組んでおり、全体として非常に落ち着いた学校生活を送ることができている。			
⑦文化的教養を高め、豊かな情操と想像力を育成する「芸術鑑賞会」を実施する。 ☞7月に2年生を対象に大阪四季劇場において、ミュージカル「CATS」を鑑賞した。本物のミュージカルに触れることにより、大きな感動を味わうことができた。			
⑧本校の人権教育方針に従って、人権教育読書・人権教育講座等を実施し、人権教育通信を発行する。 ☞人権教育読書・人権教育講座・人権教育通信を通して、人権意識の高揚が図れた。	☞人権教育講座においては、事前に綿密な準備が必要である。		

<p>⑨資格取得を通して自信と誇りを高め、意欲ある学習態度の伸長と主体的な進路選択ができる態度・能力の育成に努めている。</p> <p>☞電気情報科においては、国家資格取得や各種検定試験合格により、ジュニアマイスター顕彰制度(全国工業高等学校長協会)対象者は、全体の90%であり、内訳は理事長賞2名、特別表彰9名、ゴールド26名、シルバー10名である。理事長賞を受けたのは創設以来初めてであり、受賞できる者は全国で若干名である。</p> <p>工業技術顕彰制度表彰(兵庫県高校教育研究会工業部会)は、39名が対象者となり、内訳として金賞23名、銀賞13名、顕彰3名である。1年生の段階から積極的に指導を入れることにより、生徒には意欲的にチャレンジして行く雰囲気生まれ、学習活動や進路選択に良い影響を与えた。加えてコンピュータネットワーク等の電気通信関係の実習を充実させている。その結果、国家資格電気通信設備工事担任者試験に多くの生徒が合格しており、あわせて情報通信エンジニア資格も取得している。国家試験実施機関である一般社団法人日本データ通信協会より、3年連続優良団体の表彰を受けている。本年度は「学校の部」で全国第1位となった。</p>	<p>☞商業学科では複数の難関私大に進学できたが、さらに難関私大への進学を増やすためには、英語の単位増が必要である。</p> <p>☞電気情報科においては、実技を伴う国家資格を受験しているため、教員の技術水準の維持と資質向上のための研鑽時間と機会の確保が必要である。また、教員が高齢化しているため、技術の伝承を確実に行う必要がある。</p> <p>校舎の構造上の問題として、体育館からの低周波振動が7年たった今でも、日々の教育活動の妨げとなっている。</p> <p>さらに実習室が手狭で安全対策に苦慮している。既存の施設設備を工夫して使用しているが、拡充が望まれる。</p> <p>国家資格取得は、工業教育の質の向上を目指す有効な手段であるばかりでなく、学科にとっても士気の高揚・活性化につながる重要な取り組みである。生徒にどのような力を身につけさせるか明確にさせ、生徒が早期に職業に対する自己の適性を理解し、主体的な進路選択能力を身につけさせることを念頭に置く。</p>
<p>⑩高大連携授業を行い、学問の面白さにふれ、学ぶことの楽しさを感じさせ、学習意欲の向上を図っている。</p> <p>☞普通科において、関西学院大学、関西大学との連携として実際に大学を訪問し、大学生のワークショップを体験することで、学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>関西学院大学と国立民族学博物館との連携として、1年「社会と情報」の授業で、民族衣装や民族楽器を活用した授業を行い、異文化理解や情報を伝えることの面白さを感じさせることができた。</p> <p>関西大学との連携として、1年「総合的な学習の時間」の授業で、大学におけるゼミと研究について説明してもらい、大学で学ぶことを知ることができた。</p> <p>関西大学との連携として、2年「社会と情報演習」の授業で、大学生が参加しているプロジェクト活動を体験し、その内容でディベートをしたことで、大学を学ぶことを知り、学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>園田学園女子大学との連携として、1年「社会と情報」の授業で、大学生が授業体験に来て、大学生と共に授業を受けることができた。</p> <p>大阪音楽大学との連携として、実際に大学を訪問し、大学生の授業や設備を見学することで、学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>☞商業学科の生徒が、兵庫県立大学で講義を受け、大学進学を意識が高まった。今後も継続していきたい。</p> <p>☞電気情報科において、高大連携事業の一環を産業技術短期大学にて実施し、内容として3次元CADの受講と実習を行った。また、特別講師による授業においては、大阪電気通信大学(ゲームクリエイターとは)、阪急電鉄(人生設計と鉄道技術)、三菱電機(一流になるには)など大学や企業より講師を招き、生徒の個性を活かした生きる力を育むとともに、魅力ある学校づくりを推進し、生徒の多様なニーズに対応している。学年ごとの事業所見学を、1年は住友電工伊丹製作所、2年は阪急電鉄正雀工場と新日鐵住金鋼管事業部、3年は三菱電機伊丹製作所で実施し、知識や技術を確実に習得する機会とした。</p>	<p>☞現在、普通科の高大連携授業は1つずつのイベントになっているが、それぞれの高大連携授業を関連させたり、総合的な学習の時間や他の授業とも関連させたりして、3年間を通じたつながりを意識していく必要がある。</p> <p>バス代がかかるイベントは費用面の負担が大きいため、今後は電車で行く高大連携授業や本校に来てもらう高大連携授業を増やしていく必要がある。</p> <p>☞電気情報科においては、官学産のスムーズな連携体制を確立するため、関係省庁の指導・支援を期待する。</p> <p>職業との関連が深く、実質的な教育を行う専門学科においても、変化に対応するため、生涯にわたって自ら学び続ける学力や、それぞれの職業分野での基盤を確実に身につけさせることが必要であり、産業構造の変化や技術革新に柔軟に対応できる人材を育成する必要がある。</p>
<p>⑪阪神間の企業の協力を得て、インターンシップを行い、自分の将来をじっくりと考える意識を高めさせている。</p> <p>☞商業学科のインターンシップは、大多数の生徒にとって、働くということについて少しでも触れることができ、良い経験となった。</p> <p>☞ものづくり機械科のインターンシップは、事前指導の中でさまざまな形で投げかけることにより、生徒の「やる気・期待感」を持たせることができた。また、生徒発表会では、取り組んだ作業内容や思いを生き生きと発表した。</p>	<p>☞商業学科の課題としては、受け入れ可能企業の数と職種が必ずしも生徒の今現在就いてみたいと思っている職種と一致していないことである。来年度は市役所や税務署などの協力も得て、インターンシップを継続したい。</p>
<p>⑫外部講師による講話を通じて、社会的自立に向けた態度・能力の育成に努める。</p> <p>☞商業学科において、本年度はSMBC他、大阪経済法科大学、尼崎税務署より講師を迎え、商業に関する様々な講話をいただき、キャリア教育として大いに役立った。来年度も継続していきたい。</p>	

<h3>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</h3>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
①3学期に実施する「マラソン大会」に向けて、年明けからの体育の授業で持久走に取り組む。 ☞1月から7～10回にわたり、持久走に取り組んだ。毎時間記録をとることで、具体的な数値目標を設定することができ、意欲的に取り組む姿勢が見られた。また、記録の推移を見ていくことで生徒自身が体力の向上を実感できた。		
②「ほけんだより」の発行により、健康的な日常生活が送れるように情報発信等を行っている。 ☞前月の「ほけんだより」に加えて臨時版も発行できた。	☞テーマを決めて、時間をかけて内容を考えられるとさらによい。	

<h3>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</h3>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	3.3	3.0
取組とその成果	課題と改善策	
①校外の敷か所において、生徒指導部の教員を中心に「自転車安全運転指導」を行っている。 また雨天時の「傘差し運転」の禁止運動も校門を中心におこなっている。 ☞4月当初に行う学年毎の交通安全指導や、10月にはスクエアドストリート交通安全教室を開催し、自転車マナーに対する生徒自身の意識が高くなった。また、実際に交通事故に遭った際でも、迅速かつ適切に対処できるようにしている。そのため、自転車に関する外部からの苦情も激減している。	☞傘差し運転、二人乗り、イヤホン装着等の自転車マナー違反については、今後も厳しく指導していき、交通事故が0件になるように、更なる生徒の意識向上を目指す。	
②「AED」及び「救命救急法」講習会、「避難訓練」などを実施し、教職員及び生徒の防災意識のさらなる向上を目指している。 ☞1年生を対象に2日間、7月に普通救命(AED)講習会を開催し、消防署の方が講師となって、実技講習を行った。両日とも養護教諭も実技講師として指導できた。 ☞消防署の協力を得て、全校生徒を対象に、4月に避難訓練を実施し、防災意識の向上を図ることができた。	☞AEDが2台に増えたので、普通救命講習会については、教職員全体でも年1回実施できればさらに良い。	

<p>③安全な学校づくりのために、学校施設の安全点検を各学期に行い、危険箇所の早期発見に努めている。</p> <p>⇒4月・9月・1月に校内の施設・設備の安全点検を行い、危険箇所の早期発見と改善に努めることができた。</p>	
<p>④実習授業前に必ず集合し、服装や体調の確認を行い、安全に対する注意喚起に努めている。</p> <p>⇒ものづくり機械科では、作業前の安全確認をすることで、気持ち引き締まり、緊張感を持って授業がスタートできた。</p>	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
<p>(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る</p> <p>(2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する</p>		3.4	3.5
取組とその成果		課題と改善策	
<p>①生徒指導の充実を図るため、「生徒指導委員会」や「職員会議」において教師間の意思疎通を適切に行うなかで、現在の生徒指導の問題点や現状に合致した規定の改定の協議を進めている。</p> <p>⇒生徒自身が、携帯電話が無くても学校生活に支障はないという意識を強く持ち、本場に適切な使い方が出来るようになるため、来年度から、生徒持参の携帯電話に関する規定を、敷地内全面使用禁止にすることになった。</p>		⇒規定の改定とその理由について生徒への周知徹底を図る。	
<p>②夏季休業中(特に7月下旬)に「三者面談」を実施、学習、進路、日常生活の情報交換を密に行い、保護者との連携を深めている。</p>			
<p>③「保護者会」を開催し、おもに進路指導を中心に保護者との連携を図っている。</p> <p>⇒1・2年生の保護者に対して10月に進路保護者会を開催し、「卒業生の進路状況」や「就職・進学事情の今と昔」「進学にかかる費用」「高校生とのかかわり方」「保護者として今できること」など具体的な事例をあげながら話し、保護者に進路に関する理解を深めてもらった。</p>		⇒参加者が全体の約4割であることから、保護者との協力体制を高めるためには別の方法を考える必要がある。	
<p>④中学生及びその保護者対象に「学校説明会」及び体験授業を中心とする「オープンハイスクール」を(年間計5回)開催し、本校の教育方針(内容)や施設見学を通して、本校の魅力をアピールしている。</p> <p>⇒6月に学校説明会、7月に普通科オープンハイスクール、9月に専門学科オープンハイスクール、音楽類型体験入学、10月に学校説明会を行い、多くの中学生・保護者に参加してもらえ、本校を知ってもらう良い機会となった。</p>			
<p>⑤「学校保健委員会」を開催し、保護者や学校医も交え、家庭や地域との連携した学校保健活動を展開している。</p> <p>⇒「学校保健委員会」の資料を作成し、開催できた。</p>			
<p>⑥ホームページの更新を頻繁に行い、本校を知ってもらうための情報発信に努める。</p> <p>⇒ホームページの更新をこまめに行い、校内の様子や本校に関する最新の情報を掲載するなどして、本校を幅広く知ってもらうための情報発信をしている。</p>			

教育目標		本校の教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
<p>(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開</p> <p>(2) 教育目標の具現化と指導の充実</p>		<p>①広い視野と創造性をもつこころ豊かな人間を育てる。</p> <p>②高い志をもち、主体的に生きる人間を育てる。</p> <p>③幅広い知識と教養を身につけた人間を育てる。</p>	3.0	3.0
取組とその成果		課題と改善策		
<p>①生徒指導の充実を目指して、「生徒指導委員会」において、教師間の意思疎通を図り、教師が「一枚岩」となって生徒に対応する。</p> <p>⇒生徒指導委員会をはじめ、様々な生徒指導の場面を通して、教職員全体が共通認識を持って生徒に対応できている。複数の教師から同じ内容で注意されることによって、生徒自身の意識改善にも繋がりがやすくなっている。</p>		⇒現状に満足せず、常に努力を続ける必要がある。		
<p>②「教育課程編成委員会」において、現行の教育課程や教科指導の具体的な内容を検討し、教育目標の達成に取り組む。</p> <p>また、将来予定されている「学習指導要領」の改訂及び「新テスト」の導入に備えてその研修を推進する。</p> <p>⇒大学の「新テスト」に備えて、カリキュラムを変更したり、人文と国際のカリキュラムを近づけた。また、必修科目を増やし、更なる学力の向上を目指す。</p>		⇒新教育課程の学習が必要である。		

研究テーマ		教育研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
<p>(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開</p> <p>(2) 研究テーマの具現化と指導の充実</p>		<p>①障害者差別解消法および合理的配慮について、職員間での共通理解を図る。</p> <p>②身に付けた知識・技能を活用して課題を解決する能力を育み、主体的に学ぶ態度の育成を図る。</p>	3.0	3.0
取組とその成果		課題と改善策		
<p>①人権教育充実のため、教職員向けの人権教育研修会を実施する。</p> <p>⇒情報モラル・セキュリティについて、有意義な話を聴くことができた。</p>		⇒より多くの教職員の参加があればよかった。可能な限り校内のニーズにあった研修会を行う。		
<p>②各委員会、各教科等で学習指導や生徒指導のあり方について、(必要であれば、外部講師を招聘し)「研修会」を企画する。</p> <p>⇒教職員の「カウンセリングマインド研修」を開催できた。</p> <p>⇒SNSに関する講演会を開催し、ネットに潜む危険を認識した上で、スマートフォンの正しい使い方を学んでいる。その結果、SNS関連のトラブルも減少傾向にある。また、来年度からの規定の改定に伴い、生徒会が中心となって携帯電話の敷地内使用禁止の仮導入を行い、全校生徒に携帯電話の適切な利用方法について呼びかけている。</p> <p>⇒各教科会で常に学習指導について、いい話合いをもつことができた。</p>		⇒研修内容を今後も現状に即したものとなるよう企画していく。それにより参加者も増やすことができればさらに良い。 <p>⇒何事に対しても、生徒自らが主体的に取り組むことが出来るように、今以上に働きかける必要がある。</p>		

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる (1)通常授業以外の長期休業日や放課後に補習を積極的に行い、学力向上に取り組んでいることがわかった。 (2)学校を会場とした英検の取り組みのより一層の充実を。公開授業週間の案内をいただけたらありがたい。 (3)夏期休業中・放課後の補習については、教員の人数・持ち時間数・教室の確保等課題があると思いますが、継続していただきたい。公開授業については、各教科が参加した交流会の推進、更に研究授業の実施を見据えた形で継続して頂きたい。	3.5
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1)昨年同様、積極的に校外研修や校外活動、高大連携授業を行っている。 今後は先生方や保護者にも地元中小企業等を知っていただくために企業見学会や説明会等を開催できれば、さらなる生徒への情報ツールが生まれると思った。資格取得にも力を入れている。 (2)高大連携授業の充実が驚かされる。素晴らしい取り組みである。 (3)道徳教育等の促進、基本的な生活習慣確立のための取り組み等を促進し、キャリア教育を充実させ、生徒の心身共に健全な育成・社会的自立に必要な能力の育成等を図って頂きたい。生徒の進路選択については、「生徒が自ら考え、自ら行い、自ら責任を持って」、自主的・主体的に進路選択できるよう今後とも適切なサポートをお願いしたい。 遅刻者に対する「早朝登校指導」の継続をお願いしたい。 芸術鑑賞会については、現状の方法での継続をお願いしたい。 高大連携授業については、連携大学数も増加してかなり活発になってきていると思いますが、可能な範囲で継続をお願いしたい。	4.0
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1)数値データの活用が出来るのでは。 (2)食育や体力は、生徒の心身共に健全な育成につながると思われるので、その充実をお願いしたい。	3.5
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1)自転車に関する外部からの苦情が激減していることはすばらしい。自転車運転指導や交通安全指導の効果が表れている。AEDも早期の3台目設置の実現を。 (2)「自転車安全運転指導」の継続をお願いしたい。AEDが2台設置され、さらに3台目の設置も実現して頂きたい。 学校施設・設備の安全点検は非常に重要だと思います。今後とも危険箇所の早期発見・改善等に努めて頂きたい。	3.5
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1)三者面談、保護者会、学校説明会、オープンハイスクール等を実施し、家庭や地域との連携ができています。 引き続きオープンな高校を目指してほしい。 (2)生徒持参の携帯電話の敷地内全面使用禁止について、保護者・生徒への周知徹底をよろしくお願いします。 年間計5回の学校説明会・オープンハイスクール・体験入学あるいはホームページにおける情報発信等を通してのPR活動を継続し、家庭・地域・学校から信頼され、活力に満ちた学校づくりを目指して頂きたい。	3.5
■教育目標 (1)今後とも、「生徒指導委員会」をはじめ、様々な生徒指導の場面を通して、教職員全体が共通認識を持って対応できるよう生徒指導の充実を図って頂きたい。「学習指導要領」の改訂及び「新テスト」の導入に備えての研修の推進と新教育課程の策定にご尽力頂きたい。	3.3
■研究テーマ (1)今後ますます多様化するSNS、スマートフォンについては、さらなる研修会、利用法、正しい使い方等の学習が必要だと思う。 (2)人権教育、学習指導、生徒指導のあり方について、現状や校内ニーズに即した教職員向けの研修会等を継続的に実施し、今後とも教職員の資質向上に努めて頂きたい。また「SNSに関する講演会」等についても毎年継続的に実施して頂きたい。	3.0
■その他 (1)教職員の意識の充実を感じさせられる取り組みがなされている。 (2)保護者アンケートの実施を。	
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B